

◆六十九年前の十二月八日。日本は、アメリカ・真珠湾を奇襲攻撃し、太平洋戦争に突入。その後、四年近い四十四カ月、日本人だけでも三百万人余の生命が失われ、広島・長崎に投下された原爆による被害者の苦労や実際の苦痛は、当時だけではなく、今もなお継続。

◆しかし今年の同日、日本開戦のことを、A新聞では、連日掲載のコラムに少し書いたのみ。当日の一面トップ記事は、各国の十五歳を対象にした「国際学習調査」結果で、「日本の読解力が八位に回復(前回は十五位)」という記事。もちろん、今後の日本を担っていく若者の学力が回復・向上したことは喜ばしいことではあるが、この若者たちが戦争のこと、そして何よりも、現在の平和憲法が戦争の反省から出来あがっていることを心に留めているだろうか！

◆わが日本国憲法の前文には何と謳われているか？ ↓裏面
「：政府の行為によって再び戦争の惨禍が起ることのないやうにすることを決意し：」
・さらに憲法前文だけでも「平和」という言葉を四回も用いていることから分かるように、戦争の深い反省をし、平和への決意を真正面に出したのである。

◆また二日後の同新聞には、六年ぶりに改正の「防衛大綱」が明らかに became として紹介をしている。

・最初の「防衛大綱(一九七六年)」は、「基盤的防衛力構想：自衛隊部隊を全国にまんべんなく配置」であったが、今回から「動的防衛力：機動力や即応性重視」に転じたのである。つまり、尖閣諸島や北朝鮮の動向に対応できるように変更、それは、戦争に繋がる実際的な自衛隊活動と言えるのではないか。

・ただ、武器輸出三原則については明記を先送りした。

◆このように現政権は、旧・自民党政権と変わらない考え方で走っており、憲法改正論者もあり、厳しい状況と言わざるを得ない。

※この流れで、「憲法」がなし崩しに崩されていくのだろうか。

・若者の「読解力」回復も良い事であるが、今求められているのは、国民全体での「憲法・読解力」の回復ではないか！

◆改めて、十二月八日・開戦と、戦争の虚しさを思い起こし、平和憲法をさらに掲げようではありませんか！

二〇一〇年十二月十二日(日) 第五二六回・憲法を守る平和行進